

平成 23 年度 3 月議会 一般質問

民主フォーラムの堤です。

通告に従いまして質問させていただきます。

今回の質問は、まずは

白黒竹食街道の B・1 グランプリ出展の応援について 2 項目 2 点

全ての虐待を長岡京市からなくすための取り組みについて 4 項目 9 点

お伺いしたいと思います。

理事者の皆様におかれましては簡潔かつ明瞭な答弁をよろしくお願いいたします。

白黒竹食街道の B-1 グランプリ出展の応援について

2011 年 3 月 1 日に「京都・長岡京 竹だけプロジェクト実行委員会」によって立ち上げられた白黒竹食街道も間もなく 1 周年を迎えようとしています。「京都・長岡京 竹だけプロジェクト実行委員会」は 2010 年 10 月に行われた交通社会実験の期間中に市役所広場において開催した「食と味の祭典」に出展したメンバーが中心となって、同年 11 月に立ち上げた「食による街の活性化委員会」が長岡京市内の飲食店に呼びかけて作られました。「京都・長岡京 竹だけプロジェクト実行委員会」は、その前身となる「食による街の活性化委員会」の名前が示す通り、食べ物によって長岡京市を盛り上げようと日々活動をしております。市内の飲食店から本市活性化の活動がなされていることに、私は大変うれしく感じております。また、立ち上げとその後の運営に協力されている本市職員の皆様の取り組みに敬意を表しますと共に、官と民が一体となって行うまちづくり活動を大いに評価いたします。

そこで、まず

1. 本市としてこの白黒竹食街道の取り組みを長岡京市活性化のためにどのように位置づけているのかお伺いいたします。

白黒竹食街道が 2 年目を迎えるに当たり、京都・長岡京 竹だけプロジェクト実行委員会は「B 級ご当地グルメの祭典！B-1 グランプリ」に出場するべく取り組みを進めています。

B-1 グランプリとは、地域で食されている「B 級ご当地グルメ」でまちおこし活動を競う、地域活性化を目的としたイベントです。2006 年から開催されており、B-1 グランプリの優勝に当たるゴールドグランプリは、その地元には大きな経済的効果をもたらします。例えば、2008 年ゴールドグランプリの「厚木シロコロ・ホルモン」は大会終了後の 3 か月で約 30 億円の経済効果があったとされています。2009 年ゴールドグランプリの「横手焼きそば」では横手焼きそば体験ツアーが企画され、横手市内の休日のホテル宿泊客数が急激に伸びたり、2010 年ゴールドグランプリの「甲府鳥もつ煮」では大会終了の翌日から甲府市内の鳥もつ煮を提供する飲食店に客が詰めかけ、普段の 5 倍以上の客足がありました。これらは一過性で終わることなく、さすがに総数は減少するものの継続的な経済効果を現在もたっています。また、優勝・準優勝・3 位等の上位成績を修められなくても、インパクトのある料理はメディアや口コミで紹介されご当地の知名度が上がりますし、B-1 グランプリ出場自体が B 級グルメのファンとその経済活動に一定の効果を及ぼすと言われております。

しかしながら、この B-1 グランプリは「まちおこし団体」の活動を競うものであり、「料理」自体を競うものではありません。B-1 グランプリを運営する「一般社団法人 B 級ご当地グルメでまちおこし団体連絡協議会」自身も、「おいしいのはもちろんのこと、地域を PR

するパフォーマンスや、おもてなしの対応などを含め、総合的に評価」することを明言しております。B-1 グランプリは全国の B 級ご当地グルメを楽しんでもらうと共に、現地へ足を運んでもらうための仕掛けとしての、食のまちおこし活動のお披露目の場であり、その観点から正しく観光振興策そのものであるとも言えます。

私もこれまで、本市へ観光に訪れていただく方の客単価をどのように引き上げるかについて、また、細川ガラシャを取り上げた大河ドラマを誘致してもお金を消費していただく場がなければ観光振興につながらないのではないか、等々の一般質問を行って参りましたが、B-1 グランプリへの出場は観光消費額向上のための解決策になると大いに期待できます。

B-1 グランプリは B 級グルメを通じて長岡京のまちを知ってもらうための活動であり、まちぐるみでの盛り上がりが不可欠であります。また、B-1 グランプリを通して本市の魅力や大河ドラマ誘致の活動も全国に発信することができます。観光振興に相乗的な効果を発揮すると期待される B-1 グランプリ出場への取り組みを是非とも行政として応援すべきであると考えますが、

2. 本市としての考えをお伺いいたします。

全ての虐待を長岡京市からなくするための取り組みについて

去る 2 月 16 日に警察庁は、全国の警察本部が平成 23 年中に摘発した児童虐待事件が 384 件、前年と比較して 32 件、9.1%増との発表をしました。これは統計を取り始めた平成 11 年以降過去最多であり、児童虐待撲滅に向けての道のりの険しさを改めて感じさせられました。しかしながら、この増加は社会の関心の高まりから、今まで潜在していた児童虐待が通報によって表面化したことによる増加であり、大変重い足取りではありますが、撲滅への道のりを一步一步前進しているものと、私は肯定的に受け止めています。

そのような中で、昨年 6 月 21 日に大阪府と大阪産婦人科医会は、妊婦健診をほとんど受けずに出産した未受診妊婦 148 人のうち、医療ソーシャルワーカーが関わるなどした深刻なケース 38 人中 22 人の母親に児童虐待の傾向が見られたとの調査結果を発表しました。

妊婦健診は 14 回程度受けることが望ましいとされていますが、未受診妊婦は受診回数が 3 回以下か、最終の受診から 3 か月以上が経過した方とされています。未受診での出産は母子ともに健康上のリスクが高く、26%の子供が低体重で生まれ、27%は何らかの合併症を引き起こしていたとのことで、大阪産婦人科医会は妊婦健診の未受診は「胎児虐待」とであると指摘しています。

母親のお腹の中にいる時点から愛情をもって接することができないのですから、出産後に高確率で虐待を行ってしまうのは必然の流れと悲しく感じます。このようなケースを事前に把握することは虐待防止対策として有効であると私は考えます。

そこで、3 点お伺いします。

1. 大阪産婦人科医会は妊婦健診の未受診は「胎児虐待」とであると指摘していますが、本市としてはこの指摘をどのように考えるか市長のご所見を伺います。
2. 昨年度の出生者数のうち、このような未受診妊婦、あるいは本市が行っている妊婦健診の助成の利用 3 回以下で出生した子供の人数について教えてください。
3. 今後の虐待対策を行う上で、妊婦健診の受診回数について着目することは深刻な虐待事件を回避するうえで重要であると考えますが、いかがでしょうか。

昨年 10 月 22 日には名古屋市において中学 2 年生の男子生徒が 5 回の通報が行われていたにもかかわらず保護する機会を逸し、命を落とすという痛ましい事件が起きました。また、福岡においては 10 代の少女 2 人に対して刃物で切り付けたり、傷口を針と糸を用いて縫う等の虐待を加えた事件も発生しました。虐待被害者は幼児・障がい者・高齢者等訴える手段を持たない方ばかりではないのだと、改めて重く感じております。特に小学生高学年や中学生になると、性的な虐待のリスクも高まります。

そこで、2 点お伺いします

4. 10 代に対する虐待防止の本市においてはどこが受け皿となっているのか教えてください。
5. 防止の受け皿が適切に機能している状態にあるのか確認させてください。

昨年 6 月 24 日に「障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律」、いわゆる障害者虐待防止法が成立し、今年 10 月 1 日より施行されます。これによって児童・高齢者・障がい者に対する虐待防止法が出揃い、DV 防止法も併せて広く虐待に対して防止措置を取ることができるようになります。

そこで、3 点お伺いします。

6. 障害者虐待防止法の成立を受けて、本市としては新たにどのような施策の実施をお考えでしょうか。
7. 同法第 10 条において養護者による虐待を受けた障がい者の保護のために必要な居室を確保することを市町村に課されています。これは高齢者虐待緊急一時保護と同様なものになると考えられますが、この居室をどこに確保しようとお考えでしょうか。
8. 同法第 14 条 2 項において養護者の支援として、「養護者の心身の状態に照らしその養護の負担の軽減を図るため緊急の必要があると認める場合に障害者が短期間養護を受けるために必要となる居室を確保するための措置を講ずるものとする」とありますが、先の第 10 条との違いをどのように認識されているでしょうか。

最後になりますが、DV も含めてすべての虐待は犯罪であり、その撲滅に向けて本市として強い姿勢で臨むよう市長のお言葉をいただきたいのですが、

9. 市長のご所見を伺います。

以上で一回目の質問とさせていただきます。

どうか前向きな答弁をお願いいたします。

白黒竹食街道の B-1 グランプリ出展の応援について(再質問)

大変前向きなご答弁ありがとうございます。長岡京市としても応援していただけるとのお答えをいただきましたので、もう一段深めて再質問させていただきます。

賢明な議員諸侯、並びに傍聴、理事者の皆様には、先ほど来重ねて申し上げておりますよう、B-1 グランプリへの取り組みは料理を競うものではなく、まちづくりを競うものであるということをご理解いただけたと思います。

しかしながら一般の方は、B-1 グランプリは料理を競うイベントだという認識しかしていらっしゃいません。そのような状況で B-1 グランプリ出場に向けた協力の呼びかけでも、「なんでお前の商売を手伝わにゃあかんねん」となってしまいます。

そこで、B-1 グランプリ出場に向けて、行政が主導で商工会や NPO サポセンを始めとする地域の諸団体にまちづくりのプロジェクトチーム結成の呼びかけを行ってはいかがでしょうか。これからの長岡京市の活性化のためには、市民の皆様のつながりが必要となってきますし、B-1 グランプリの評価もまちが一体となったまちおこしです。いわば同一方向を向いた取り組みでもあり、今後のまちづくりにとって有益であると言えます。

その後の運営は、集まっていたいただいた皆様にお任せするとして、最初の呼びかけは経済的にも政治的にも中立である行政が行えば、広く市民の皆様のご協力をいただきやすくなると思われまます。是非ともこのプロジェクトチーム結成への呼びかけを本市が音頭を取って行っていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。